

第1回日本放射線医療技術学術大会開催に思う

富田 博信

公益社団法人日本診療放射線技師会 副会長

本年10月31日から11月3日まで、沖縄コンベンションセンターで第1回日本放射線医療技術学術大会が開催されます。現在、日本放射線技術学会（JSRT）と共に合同実行委員会を設置し、開催に向けた準備を着々と進めております。学術大会の合同開催につきまして、ここに至るまでの道のりは本誌でも広報してきましたが、多くの時間と関係各位の尽力を要しました。振り返ると2017年、当時、私が委員として活動していたJART-JSRT将来構想会議で検討を重ね、両会への答申として「合同学術大会開催の検討」が盛り込まれました。その後、JARTとJSRTのトップ会談（上田会長、白石前代表理事）が2020年10月15日に行われ、両代表合意の下、その実現に向けた具体的な取り組みが始まりました。本格的な検討については、2021年より私とJSRT市田隆雄副代表理事が委員長となり、新たに設置したJART-JSRT協力体制推進特別委員会の中でさまざまな案が検討されました。合同開催に至るには、両会の学術大会に係る規程や規約などを互いに理解し、尊重し合うことが必要です。推進委員会では、1年近い議論の末、新たな規程案を提案することができました。他にもさまざまな検討事項がありましたが、一つずつ問題を解決し、両会の理事会の承認を経てようやく実現する運びとなりました。これは、2020年より本会が進めております、関連する学会との連携を強化する取り組みにもつながっております。



職能団体であるJARTは、学術大会において診療放射線技師の実務に役立つ情報を提供し、共有することを目指し、厚生労働省の新しい医療政策に関する講演、シンポジウム、参加型セミナーなど、さまざまなプログラムを展開してきました。一方、学術団体であるJSRTは、医療現場に应用できる最新の学術研究や、将来的に重要になる新しい研究などを共有しております。今回の合同大会を通じて、JARTとJSRTがそれぞれの役割を再確認し協働して取り組むことで、新しいプロジェクトを見つけ出すきっかけになればと願っています。本大会の構想から実現までの過程において、JSRTをはじめとする関係団体の皆さまとの絆はさらに強固なものとなり、本会にとって大きな財産になることを確信しております。

医療においても連携やチームワークは重要です。異なる専門知識を持つメンバーが協働することで、患者さんに対する検査や治療の質が向上するのではないのでしょうか。またリソースの最適化と効率化も重要と考えます。二つの組織が力を合わせることで資源を合理的に活用し、参加者に対してより多くの学びの機会を提供することができると思っています。また両会にとって、さらなるコミュニケーションと協働の機会を創出し、共通の目標に向かって「協力し合う文化」の醸成につながることに期待しております。

個人や組織の成長を考えると、大きな目標は、単独で成し得ることは難しいことが多いかもしれません。しかし、協力し合うことで目標の達成に近づき、大きな成果を上げることができると思います。私たち診療放射線技師がさまざまな社会変化の中で持続的に成長するには、継続的な学習と自己研鑽けんさんが必要です。この共同開催を通じて知識の更新、技術の習得、そして専門性の深化を促し、会員の皆さまが持続可能なキャリアパスを築く一助となれば幸いです。